

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390100261		
法人名	一般社団法人米内地域支援プラザ		
事業所名	グループホーム やまぼうし桜台		
所在地	〒020-0002 盛岡市桜台二丁目18-3		
自己評価作成日	令和6年10月2日	評価結果市町村受理日	令和7年1月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和6年10月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

閑静な住宅街にあり、近隣には中学校や児童センターがあり、日常的に多くの人たちが行きかう場所に事業所がある。同敷地内には当法人が運営するサービス付き高齢者向け住宅とデイサービスもあり、それぞれが連携して活動を行い、入居者へサービスを提供している。また、災害時にも相互に連携をとれるように日頃から交流をしている。グループホームでは訪問診療を採用し、施設にいながら医療を受け、訪問看護にも来設してもらい、医療面でも利用者を支えられるようにしている。自然に囲まれた地域なので都市部ではできない自然を活かした活動や畑作業なども取り入れながら認知症と向き合っていきたいと思っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

閑静な住宅地に位置し、1階が有料老人ホーム、2階がグループホームとなっている。敷地の中心に事務所があり法人が運営するサービス付き高齢者向け住宅、デイサービスが隣接している。日頃から連携して入居者へのサービスを提供し、災害時にも連携が取れるように顔の見える交流がある。車で数分の所に農園があり、畑作業を取り入れた活動や採れた野菜を使った季節を感じる食事提供に努めている。近隣には中学校、児童センターがありコロナ禍の影響で交流は一時中止されているが、近くのコンビニやスーパーに情報誌を置かせてもらったり、YouTubeで畑作業やレクリエーションの様子の情報発信を継続している。施設内は「整理・整頓・清潔」の運営理念に基づき、職員の行動に活かされ清潔に保たれている。医療連携は、協力医療機関から訪問診療と訪問看護、訪問歯科診療を受けることで健康管理が維持され、利用者家族の安心につながっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム やまぼうし桜台

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	整理・整頓・清掃を基本とし、清潔感のある施設運営をおこないつつ、利用者に寄り添った介護を行う。	開設当時からの法人の社是である「整理・整頓・清潔」を理念としている。職員は清潔な環境づくりに取り組み明るく楽しい生活の場を提供出来るよう、月2回開催されるケア会議で理念の確認を行い、日々のケアに活かしている。	グループホームとしての理念、目標を職員が実践に活かしていくため行動計画を作成し、達成状況を確認して新たな行動計画に繋がるよう、職員の育成に具体的に取り組むことを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナが5類となったため家族との交流を再開している。対面での面会も行い、一部の利用者を除き皆さんが対面での面会を行っている。また、外出し、食事をしてくる家族もいる。	家族との対面での面会を再開した。地域の夏祭りへの参加の声をいただき2名が参加したが、事業所主催行事への地域の方々の参加は、まだ以前のようには出来ていない。広報誌の「やまぼうし通信」を近くのコンビニやスーパーに置き地域への情報発信に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	やまぼうし通信を月1回発行し、地域に情報発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度、ようやく実施している。2回実施。	今年度は、運営推進会議を2回開催した。自治会長、地域住民代表、地域包括支援センター職員、利用者家族代表が参加し、感染対策や医療連携に関しての意見交換が行われている。	運営推進会議でヒヤリハット事例の報告を望みます。ヒヤリハットの報告を通じ、ケアの実態や職員の工夫などを委員に理解いただきながら、有効な事故防止対策と会議の活性化に繋がることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の問い合わせがあった場合は可能な限り調査等で協力している。	地域包括支援センターの職員が運営推進会議に委員として参加しており、市からの情報は伝えていただいております協力関係は構築できています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止委員会を通して、具体的な事例を取り上げ、職員間で意見交換を行う場を設けている。	身体拘束防止委員会を3ヵ月ごとに開催している。職員には丁寧な言葉遣いにより、仲良しではなく尊厳を持って関わるように指導している。1階の玄関と2階の階段のドアは施錠している。夜間人感センサーを使用している利用者は3名で承諾は家族からいただいている。	

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム やまぼうし桜台

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修を行いながら、その関連法の流れを確認し、日頃から虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は該当者なし。必要に応じて勉強会を行う予定。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な時間を取ってもらい、重要事項や契約内容について説明し、納得が得られた上でサインをしてもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの面会希望によりやく応えることができる。	家族が希望していた対面での面会を再開している。家族からのご意見や要望は、面会に来た時や電話をかける機会を利用して伺っている。面会に来られない家族には月1回管理者が電話で状況を伝えている。また、やまぼうし通信でも対面での面会が可能になったことを伝えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各部署のミーティングを通して、必要な改善を行っている。 例 浴室の置き型の手すりの設置(施設がレンタルしている)	職員からさまざまな提案があり運営に反映している。昨年提案があった浴室の置き型手すりは、入浴時の利用者の負担軽減に繋がっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は常に職場環境の向上に努めている。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム やまぼうし桜台

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部から講師を招いて研修を行ったり、職員のスキルアップに努めている。外部研修にも職員を出したいが、なかなか職員が増えず、派遣できないでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナは5類となったが、現場からすると脅威は変わらない。他事業所に迷惑をかけたくないため、積極的な交流はまだ控えている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の不安な部分を傾聴しながら、信頼関係の構築に努めている。また、そのことを職員間で共有できるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時や入居時に介護支援専門員が家族と面談を行い、今抱えている不安や要望を聞き、関係づくりに務めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者と介護支援専門員が家族との面談や関係機関からの情報を整理し、本人の状態を把握し、入居を決めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の今の能力を見極め、できることを可能な範囲で無理なく行ってもらっている。 例 洗濯物のたたみ方、テーブル拭きなど		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：グループホーム やまぼうし桜台

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	対面での面会を再開し、家族との絆を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族との面会の他には、訪問看護、訪問診療、福祉美容師の方には継続で訪問してもらっている。	季節になるとお墓参りに家族と出かける利用者もいる。対面での面会が可能となったが、来訪は、限られた家族のみとなっている。訪問看護師、訪問診療医、福祉美容師が利用者の馴染みとなっている。デイサービスの利用者とともに、やまぼうし農園に作業に出かける人もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席順の配置など、利用者同士がコミュニケーションを取りやすいように工夫している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの提供が終了していても、情報提供の問い合わせがあった場合は対応を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に本人と家族の意向を確認し、入居後は雑談で今後の希望を聞いたり、本人の思いに耳を傾けるように努めている。	普段の生活の中で希望を伝えてくれる利用者は2名で、意思疎通が難しい利用者は表情や短い言葉から思いを把握し、職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報提供や日常生活での会話で、生活歴を聞き記録し把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	フローシートを活用しバイタルや食事量の確認、夜間の状況について職員間で情報共有をしている。		

令和 6 年度

事業所名 : グループホーム やまぼうし桜台

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	初回、本人と家族に意向確認をするが、施設生活で見えてくる本人の能力や不安な部分のケアに対し、職員間で対応策を検討し計画書を修正している。	ケアマネジャーが本人の生活歴やこれからの意向を本人家族から聞き取りをし、ケアプランを作成している。月2回のケア会議でケアプランについて話し合い、6ヵ月毎に見直しを行なっている。ケアプランは職員で回覧し共有している。	ケアマネジャーが週1回勤務の非常勤となっており、職員へのケアプランの周知と共有の在り方について、改めて点検されることを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	フローシートや申し送りノートに記載した日々の様子を全職員で確認し、対応策を話し合っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	面会時に家族の状況確認、意向の再確認を行い、本人のために最善の方法で対応できるように他事業所の紹介や在宅復帰の相談にのっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	児童センターへの散歩に、児童と会話をしている。花を愛でながら自分で歩ける満足感を感じてもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療と訪問看護を月2回利用中。医療関係者とは本人の状態を相談しやすい関係作りを行い、本人、家族の希望を確認し早期の受診に努めている。	利用者全員が協力医療機関である高松病院をかかりつけ医として月2回の訪問診療を受診している。訪問歯科診療も受診できている。それ以外の診療科を受診する際には家族が付き添っているが、家族の都合がつかない場合には職員が代わっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の体調変化や小さな気づきを施設の看護師に報告、相談している。さらに訪問看護師に相談すべきか医療機関を受診すべきか相談し対応している。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム やまぼうし桜台

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は連携医療機関へ情報提供を行い随時状態確認を行い、スムーズな施設生活復帰となるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態が重度化して現施設で対応できない可能性があれば家族に今後のリスクの説明を行い、他の施設の情報提供を行っている。	入居時に施設の医療体制について説明し承諾を得ている。看取りは行なっておらず、状態が変化してきた場合には訪問診療の医師の指示を受け医療機関の情報を提供をしている。	令和5年4月に作成した医療体制に関する指針には疾病等による重症化・看取り介護について書かれています。看取りを行っていないのであれば、速やかに実態に即して修正することが望まれます。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師が主となって応急方法を指導している。感染等の対応物品の置き場所を周知し、急変時の対応を職員間で確認している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防計画を見直し、消防訓練を行っている	年2回総合避難訓練を行なっている。火災を想定した夜間避難訓練には利用者2名も参加した。2階から車椅子利用者1名を避難させることが課題であると認識している。災害時には法人の各事業所が応援協力の体制になっている。また事業所は地域の避難場所としての受け入れも考えており、非常用備蓄品は3日分を用意している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者のプライバシーを確保するため、優しい言葉かけをするようにしている。本人の発言は否定せず受容している。	職員には、利用者の意向を否定せず、可能な範囲で寄り添うことを意識するように話している。入浴介助は、流れ作業にならないように、プライバシーへの配慮を心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活で入居者に希望を聞きながら対応している。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム やまぼうし桜台

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	少し待ってもらうこともあるが、入居者の希望に沿うように対応している。「今日は何をやりたいですか？」などと聞いて、できることは実践している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	快適に過ごせるような衣類を選択できるようダンスの中を整理し、入居者が好きなように着替えを行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	おやつレクで好きなものを食べれるようにメニューを聞いて一緒に調理をしている。テーブル拭きやお茶出しも手伝ってもらっている。	主菜は、隣接するサービス付き高齢者住宅の厨房で調理し、職員はご飯と味噌汁を作って提供している。利用者の希望でカレーの日を決めたり、農園で収穫した野菜で季節感を出している。テレビを消し、音楽を聴きながらゆっくり食事できる環境をとっている。おやつレクでは、利用者の希望を聞きながら季節を感じながら楽しむ工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養面で心配な時は、訪問看護師にアドバイスをもらったり、家族に相談し栄養補助食品の使用を行っている。食事や水分量を記録し、少ない方には少しでも食べて頂くように「これだけは食べましょう、このくらいは飲みましょう」と伝えている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1日3回、食後の口腔ケアを声掛けし、難しい方には介助している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の記録を確認しトイレ誘導の声掛けを行っている。 移動時にはトイレの有無を確認し、汚染がないよう不快感がないように対応している。	排泄チェック表を活用し、トイレ誘導している。ほとんどの方がリハビリパンツを使用している。夜間は、2～3時間毎にトイレ誘導の声掛けが必要な利用者が2名で、ポータブルトイレを使用する利用者は居ない。排泄後はすぐに片付け、臭いや不快感がないように対応している。	

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム やまぼうし桜台

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を活用し便秘を解消するように支援している。水分摂取の声掛けをしたり、飲み物を変えたり腹部マッサージを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	職員の体制上、入浴は午前となっている。入浴拒否があった場合は無理強いをしない。本人の様子を見て安全に気持ち良い入浴支援を心掛けている。	浴室は1階にあり、一人の介助時間を十分にとり作業にならないように丁寧に対応することを周知している。入浴は週2回、午前中を基本としているが、体調や気分によって別な日に変更するなど、柔軟に対応している。着替えは、いつでも入浴できるように、入浴後にすに準備している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	気持ちよく眠れるように日中は体操や歌、会話等を行っている。照明や温度管理を行い時間を見て居室へ誘導している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が服薬管理を行い主治医に相談している。氏名、月日を復唱し誤薬がないように介助している。薬の情報は職員が見やすいようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	カラオケが好きな方には歌ってもらい、料理が好きな方にはおやつレクで活躍してもらっている。洗濯物たたみや裁縫、習字など得意なことをお願いしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気が良い日は散歩を声掛けし児童と会話したり草木を眺めている。歩行が安定している方とは近所のスーパーへおやつレクの食材を買いに行っている。	日常的に、家族と食事に出かける利用者が1名いる。コロナ禍で外出の機会は減っているが、天気の良い日は、1階玄関先の椅子に座り外気浴をしたり、事業所内は日中車や人通りが少なく、敷地続きの児童センターで児童と会話の機会を持っている。今年は、お花見ドライブを行った。	

令和 6 年度

事業所名 : グループホーム やまぼうし桜台

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人だけ自身で財布を管理している。時々出しては中身を確認しており、職員は見守りをしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族と入居者の電話での会話をサポートし、家族からの手紙を本人の居室で保管してもらっている。入居者から手紙の支援希望はない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各共有スペースの温度管理や明るさに気を付けて入居者に確認している。壁には季節の装飾を行い楽しめるようにしている。	共有のホール兼食堂では、快適な温度管理がされている。四つのテーブルが置かれ、利用者は自分の席に座り好きなことを楽しんでいる。朝食と夕食は、1階の有料老人ホームの利用者と一緒に摂っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席はその日の入居者の状態により変えている。入居者は席がわからなくなるため、クッションを目印にしたり椅子まで誘導している。話が合う入居者同士の席の配置や新しい関係づくりができるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族写真や持参したぬいぐるみやカレンダー、本などを居室に置き、利用者が過ごしやすいように工夫している。	居室にはベッド、クローゼット、エアコン、パネルヒーター、テレビが備え付けられている。利用者は衣装ケースや筆筒、ぬいぐるみを持ち込み、居心地良く過ごせるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入り口には氏名を貼り、トイレの表示を行っている。危険なものを目のつく場所に置かないように整理整頓に努めている。		